

第 28 回「野生生物と社会」学会大会(つくば大会)ポスター発表一覧

2023 年 12 月 2 日(土)~3 日(日)

○発表責任者、*賞応募発表

<会場 2C101 P-01~24>

P-01

栃木県茂木町に生息するイノシシの行動圏と移動様式について

○小寺祐二 (宇都宮大学)

P-02*

栃木県茂木町に生息するイノシシの個体間接触様式に関する研究

○藤田遼登・小寺祐二 (宇都宮大学)

P-03*

八溝地域におけるイノシシ頭骨の相対成長

○児矢野愛海・栗原望・小寺祐二 (宇都宮大学)

P-04*

福島県全域のイノシシの食性

○菅原裕弥 (福島大学)・小松仁 (福島県環境創造センター)・辻大和 (石巻専修大学)・望月翔太 (福島大学)

P-05

猟犬を用いたイノシシ巻き狩り猟における捕獲体制の検証

○檀上理沙・岩田祐・宮本大右・藏元武藏・海老原寛・関香奈子・稲葉史晃・横山典子 (WMO)

P-06*

異なる捕獲圧に応じたイノシシのカメラ撮影頻度

○王俊政・望月翔太 (福島大学)

P-07

無人航空機を用いたイノシシ被害簡易把握方法の試行

○中村大輔・金井源太 (農研機構)

P-08*

積雪地域におけるドローンを用いた銃猟の効率化について

○田中慈・佐藤弘規・山本麻希 (長岡技術科学大学)

P-09

禁猟に伴いシカの日周活動は変化するのか！？

○池田敬（岐阜大学）・松浦友紀子（森林総合研究所北海道支所）・高橋裕史（森林総合研究所東北支所）・伊吾田宏正（酪農学園大学）・渡邊拓真（一般社団法人エゾシカ協会）

P-10*

人間活動がシカの行動特性と生息地利用、日周性に及ぼす影響：流域スケールでの検証

○玉木麻香（東京大学）・谷川鴻介（スウェーデン農業科学大学）・角田裕志（埼玉県環境科学国際センター）・梅木清（千葉大学）・平尾聡秀（東京大学）

P-11*

シカと鉄道の衝突事故の発生に周辺環境が与える影響

○野澤秀倫・安藤正規（岐阜大学）

P-12

島根県におけるニホンジカの生息状況調査

○坂倉健太（島根県中山間地域研究センター）・澤田誠吾・岩下幸代（島根県西部農林水産振興センター県央事務所）・田川哲・河本忍（島根県中山間地域研究センター）

P-13

神奈川県ワイルドライフレンジャーによるニホンジカ捕獲の安全対策

○大岩幸太・片瀬英高・村田成文・丸 智明・藤井秀仁（神奈川県自然環境保全センター 自然保護公園部 野生生物課 ワイルドライフレンジャー）・小澤海斗・石川 烈・田村 淳（神奈川県自然環境保全センター 自然保護公園部 野生生物課）

P-14

ホンシュウジカの障害物を超える時の足の位置

○上田弘則・石川圭介・堂山宗一郎（農研機構）

P-15

メスジカ誘引に対する塩水の効果

○鈴木圭・森大喜・山川博美（森林総研九州）

P-16*

京都府ニホンジカ管理の政策ネットワークの可視化：言説ネットワーク分析の応用可能性

○古賀達也（京都大学）

P-17

鹿茸利用の可能性（予報）

○伊吾田宏正（酪農学園大学）・永田純子（森林総合研究所）・大泰司紀之・太子夕佳（北海道大学）

P-18*

西表島におけるノヤギ対策の現状及び課題

○塚本玄・河内紀浩（島嶼生物研究所）

P-19*

ニホンザルの個体群管理実施前後の群れの行動変化について

○大野耕平・山本麻希（長岡技術科学大学）

P-20*

緩衝帯整備がニホンザルの行動に与える影響について

○藤河由行・山本麻希（長岡技術科学大学）

P-21

六甲山系グリーンベルトにおける特定外来生物アライグマの分布拡大

○吉岡憲成（株式会社 KANSO テクノス）

P-22

新潟県中越地域におけるアライグマの寺社仏閣調査と寺社仏閣調査の痕跡判定基準の検討

○石塚大祐・山本麻希（長岡技術科学大学）

P-23*

アライグマの報道に政策転換が及ぼした影響の解明

○木村開人（北里大）・赤石旺之（都立大院）・佐々木翔哉（（株）日本エヌ・ユー・エス）・渡邊英之（（株）野生動物保護管理事務所）・石黒佑紀・高畑優（総研大）・浅妻祐一郎（兵庫県）・小河淳寛（（株）アイディーサービス）・古賀達也（京大院）

P-24*

糞分析から見たツキノワグマ近畿北部西側個体群の食性の特徴

○有働真・横山真弓・藤木大介（兵庫県立大学大学院）

<会場 2C102:P-025~048>

P-25*

福島県福島市におけるツキノワグマの出没環境に関する研究

○石井奈緒・望月翔太(福島大学)

P-26

VTOL 型ドローンを活用したツキノワグマの行動調査

○金谷祐昭・望月翔太(福島大学)

P-27

上高地に関わる多様な主体の協働によるツキノワグマ対策の成果

○香取草平・酒井英身・櫻井知寛(自然公園財団)・道鬼梨香(日本アルプス観光株式会社)

P-28

兵庫県におけるツキノワグマ対策の強化は住民感情にどのような効果をもたらしたか

○高木俊(兵庫県立大)

P-29*

日本におけるツキノワグマによる人との遭遇および人身事故の状況：クマの行動、人の行動と環境要因の関係

○ブラタナ・エリスカ(東京農業大学)

P-30

ヒグマ侵入感知システム

○石澤裕(未来のアグリ株式会社)

P-31*

現場から考える地域でのヒグマ対策

○伊藤彩乃(北海道大学)

P-32*

札幌市におけるヒグマの出没と緑地の関連性について

○宮島凜(北海道大学)・愛甲哲也(北海道大学大学院農学研究院)

P-33

展示を通して考えるヒグマと人の関係：学生による企画展示「ヒグマのとなり←つかず、はなれず→」の実施報告

○久井貴世（北大院・文学）・卓彦伶（北大院・文学）・石本万象（北大・文学）・池田圭吾（北大・文学）・菅遥斗（北大・理学）・杉浦寛大（北大・理学）・上田輝（北大・文学）・塩野入希実（北大・文学）・青山希望（北大・文学）

P-34*

市民はヒグマ出没をめぐる「共生・共存」についてどう認識しているか？：家庭菜園を営む札幌市民を対象として

○伊藤泰幹（北海道大学文学院）

P-35

公益性の高い有害捕獲における発砲基準の改正提案

○鶴野一小野寺レイナ（慶應義塾大学先端生命科学研究所、鶴岡市役所農山漁村振興課）

P-36

明治初期の札幌近郊地域におけるエゾオオカミの出没記録

○梅木佳代（北海道大学・文学研究院）

P-37

食肉目の捕殺に反対する個人は村の中で捕殺反対の規範を普及する始点となりうるか？：
バングラデシュ北東部のスナドリネコ保全の事例

○鈴木愛・安田裕子・桜井良（立命館大学）

P-38

雑食から肉食へ：富士山北麓におけるテンの食性変化に及ぼす降雪の影響

○奥村忠誠（株式会社野生動物保護管理事務所）、北原正彦（山梨県富士山科学研究所）、辻大和（石巻専修大学）、姜兆文（株式会社野生動物保護管理事務所）

P-39*

宮古諸島における外来種ニホンイタチ根絶の試み

○吉村真由・河内紀浩（株式会社島嶼生物研究所）

P-40

市民の目撃記録による特定外来生物マスカラットの分布状況の把握

○角田裕志・嶋田知英（埼玉県環境科学国際センター）

P-41

つくば市におけるコウモリ類の分布

○安井さち子(生物多様性つくば戦略調査団)・田邊 萌(筑波大・生物資源科学学位プログラム)・上條隆志(筑波大・生命環境系)・牧 貴大(鹿児島大・国際島嶼教育研究センター)・野寄 歩(筑波大・生物資源学類)

P-42*

人間活動の時空間的変動と環境要因が奥山に生息する食肉目動物の日周性と生息地選択に与える影響：同所的に生息する6種の種間差に着目して

○安井理香・平尾聡秀(東京大学)

P-43

長野県松本市における町会による獣害対策の効果と課題

○橋本 操(岐阜大学)・佐々木悠理(元筑波大学・院)・原田康多(筑波大学・院)・山下亜紀郎・津田吉晃(筑波大学)

P-44*

栃木県茂木町山間部の未舗装駐車場における鳥類の繁殖について

○大森茉緒・小寺祐二(宇都宮大学)

P-45*

栃木県茂木町においてイノシシのヌタ場を利用する動物群集に関する研究：特に鳥類群集について

○黒森ほのか・小寺祐二(宇都宮大学)

P-46

京都府宇治田原町の茶生産地における鳥類相

○前畑晃也(京都大学)・鈴木愛(立命館大学・東京都立大学)・小坂康之(京都大学)

P-47

バードウォッチャーの専門志向化からみた行動・意識の相違

○愛甲哲也(北海道大学大学院農学研究院)・千葉利久(SCSK株式会社)・菊地直樹(金沢大学先端観光科学研究所)・早矢仕有子(北海学園大学工学部)・高橋満彦(富山大学教育学部)・豊田光世(新潟大学佐渡自然共生科学センター)

P-48

コウノトリの保全事業をめぐる千葉県野田市・埼玉県鴻巣市・栃木県小山市の住民意識について

○本田裕子・高橋正弘（大正大学）

<会場 2C107:P-049~070>

P-49

イヌワシ見守りプロジェクト～営巣のYouTube ライブ配信

○須藤明子・吉田智幸・柴野哲也・須藤一成（Eaglet Office Inc.）

P-50*

鳥類音声種判別のためのオンライントレーニングツール「とりトレ」の改良と有効性評価

○小川結衣（国立環境研究所・筑波大学）・深澤圭太・吉岡明良・熊田那央（国立環境研究所）・竹中明夫（元国立環境研究所）・上條隆志（筑波大学）

P-51*

住宅地近くでのシャープシューティング体制によるカワウの捕獲

○吉田智幸・須藤明子・柴野哲也・須藤一成（株式会社イーグレット・オフィス）

P-52*

ニホンジカの個体数増加がマダニの個体数と重症熱性血小板症候群への感染に及ぼす影響

○有光典子（玉川大学）・一戸猛志（東京大学医科学研究所）・土井寛大（森林総合研究所）・關義和（玉川大学）

P-53*

北海道士別市つくも水郷公園におけるウチダザリガニの防除及び普及啓発活動

○有松洋希・玉田祐介・大内のぞみ・石川博規（株式会社長大）・照井滋晴（環境把握推進ネットワークーPEG）・本部哲矢（士別市立博物館）

P-54

陸生カニと人間活動を取り巻く諸課題—開発・観光・生産活動との関係—

○岸岡智也・松本京子（金沢大学）・荒川裕亮（のと海洋ふれあいセンター）

P-55*

圃場において散布された殺菌剤ベノミルが寄主を介してアオムシコマユバチの寄生に与える影響の評価

○時村飛鳥・藏満司夢（筑波大学応用動物昆虫学研究室）

P-56*

江戸時代の北方地域における鯨類の記録

○樋口凜太郎（北海道大学）

P-57

配電設備における野生動物起因の停電事故実態

○白井正樹（電力中央研究所）・藤岡珠代（長岡技術科学大学）

P-58

野生動物を用いた屠体給餌を教材とした獣害問題と動物福祉を組み合わせた環境教育プログラム：大学生5集団の比較

○細谷忠嗣（日本大学）・御田成顕（森林総研東北）・伴和幸（豊橋総合動植物公園）・田川一希（宮崎国際大学）・松本朱実（社会構想大学院大学）

P-59*

野生動物からみる近代日本の毛皮産業史と価値の変遷

○安藤日菜子・森部絢嗣（岐阜大学自然科学技術研究科）

P-60

広島県における鳥獣被害対策の新たな取組（予報） 県域を対象とした中間支援組織による支援～

中川浩二（（一社）広島県鳥獣対策等地域支援機構）・○藤井猛・市川哲生・関岡裕明（（株）BO-GA）・佐藤充浩・中市後祐司・向谷敦志（広島県農林水産局農業技術課）

P-61

自然公園・文化財の保存と活用をどうバランスするか-上高地における事業を題材として-

○市川哲生（株式会社 BO-GA）・小林吉文（松本市総合戦略局アルプスリゾート整備本部）

P-62

「野生動物管理モデル・コアカリキュラム」試行における受講者アンケート

○宇野裕之・高田隼人・小池伸介（東京農工大）・鈴木正嗣（岐阜大）・伊吾田宏正（酪農学園大）・江成広斗（山形大）・小寺祐二（宇都宮大）・黒崎敏文（東京環境工科）・中川 元（知床自然大学院大学）・横山真弓・山端直人（兵庫県立大）・丸山哲也（栃木県）・梶 光一（東京農工大）

P-63

生態系サービスを楽しむための森林管理：FSC 認証制度で求められる管理と地域住民が求める管理

○三ツ井 聡美・山田 祐亮（森林総合研究所）

P-64*

ソーシャルメディアへの投稿写真を活用した生物多様性情報の収集と投稿者属性の分析による市民科学への応用

○神宮翔真（森林総合研究所）

P-65

生物多様性保全の取組みにおける文化的側面に関する研究 — 先住民族による自然と文化を共に保護するための取組みに着目して—

○YAO YuHsin・飯田義彦（筑波大学）

P-66

Web データから探る人とブナ科植物の関わり合い

○本橋篤（株式会社野生動物保護管理事務所）

P-67

黒焼業の繁栄と衰退

○森部絢嗣（岐阜大学）・白木 麗（岐阜大学）・山口未花子（北海道大学）

P-68

マレーシア・サバ州における野生生物保全とドゥスンおよびムルットの狩猟活動と生活実態に関する予備調査

○横山拓真（椋山女学園大学）・本郷峻（京都大学）・中林雅（広島大学）・徳山奈帆子（京都大学）

P-69

野生動物と人の関りの変容 —マサイランドにおける保全の歴史と地域性に着目して—

○山根裕美（京都大学）・田 暁潔（筑波大学）

P-70

野生動物と共生するために私たちができること

○高崎智裕（福井南高等学校）